

会 報

第542号

担当 藤枝市立西益津小学校
発達通級指導教室

〒426-0012

藤枝市田中1丁目7番20号

TEL 054-641-0400

FAX 054-641-0408

「亀城ッ子宣言 人をいたわります」を大切にして

藤枝市立西益津小学校 校長 杉本さとみ

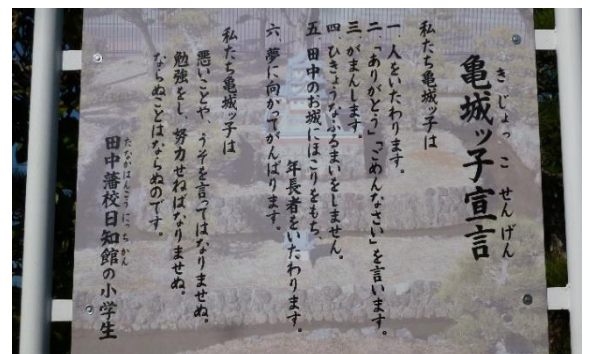
本校は、室町時代に築城され今川氏や武田氏、徳川氏などに支配された「田中城」の本丸跡地に建っている学校です。全校児童数413名で、16学級と2つの発達通級指導教室があります。田中城は全国でも珍しい同心円形の平城で、四つの丸い堀、四つの丸い曲輪に囲まれているため、別名「亀城」と呼ばれています。本校の教育は、田中藩時代に藩士教育を目的に建てられた藩校「日知館」に源があり、今年で学校創立148年目を迎えるという歴史と伝統を有しています。本校の子どもたちは「亀城ッ子」と呼ばれ、子どもたちも教職員も地域・保護者の方々も、西益津地区の歴史と文化を大事にしています。

本校には、「日知館」の教えを受け継いだ「亀城ッ子宣言」というものがあります。これは6つの項目からなる生活の指針のようなもので、子どもたちは朝の会で「亀城ッ子宣言」を唱え、宣言を意識して生活し、帰りの会で振り返りを行っています。全校集会や児童会だよりなどで、児童会を中心に「亀城ッ子宣言」の浸透を全校児童に図っています。今年は「毎日守ろう 亀城ッ子宣言」というスローガンをたて、普段の生活、運動会や亀城祭などの学校行事など、全ての場において「亀城ッ子宣言」を意識しながら生活していこうと呼びかけています。教職員はこの宣言を様々な指導に生かしています。

「亀城ッ子宣言」の6つの項目は以下の通りです。

「亀城ッ子宣言」

- 1 人をいたわります。
- 2 「ありがとう」「ごめんなさい」を言います。
- 3 がまんします。
- 4 ひきょうなふるまいをしません。
- 5 田中のお城にほこりを持ち、年長者をいたわります。
- 6 夢に向かってがんばります。



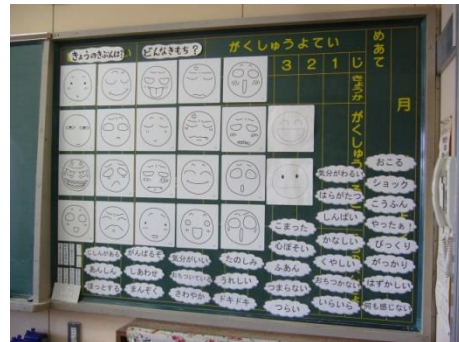
この6つの項目の中でも「人をいたわります」は、藤枝市内の全小中学校で推進しているピア・サポート活動の精神とも合致していて、6つの項目の中でも特に重点を置いています。子どもたちは明るく素直で、まわりの友だちのことを思いやって行動する姿が、授業や生活、学校行事の中でたくさん見られます。

本校の発達通級指導教室「わかくさ学級」においても、この「人をいたわります」の心を大切にした指導が行われています。人をいたわるためには、自分のことを理解して自分が好きだという自尊感情をもつこと（自分とのつきあい方）と、まわりの人とうまく関わること（人とのつきあい方）の両方が大切です。「わかくさ学級」では、一人一人の教育的ニーズに合わせて指導計画を立て、自分もまわりの人もいたわる心を育てていけるように日々指導を重ねています。

わかくさでの指導の流れ

藤枝市立西益津小学校通級指導教室「わかくさ」の指導は、事務室へのあいさつから始まります。名札をもらわないと通級教室へ行くことはできないのです（安全管理も含めて）。ここで通級するたびに入室の仕方やあいさつの言葉をくり返し学びます（帰る際も同様）。

さて、通級教室へ来ると事務室で行ったのと同様に職員室であいさつを行います。さらに、ここでは必ず来級時の「心持ち」を確認します。心情表現の語彙が不足している子どもたちが多いからです。心情表現の言葉を使わせ、そう感じている状況を確認することで使った言葉と状況を結びつけ、心情表現のラベリングを行うのです。このように「わかくさ」では、教室の中にいる時だけ学ぶのではなく、通級してきたときから、帰るまでがすべて指導だと考えています。子どもたちが困難を感じるのは、こうした一般的な生活の中だからです。



指導は、2名の教員と2名の指導員（午後のみ）で行います。このため教室は2学級となり、それぞれの教室で指導を行います。指導は①個別指導（子どもと教員が1対1）、②グループ指導（子どもが複数で教員が1）という形態に分かれます。指導を行う場所は個室の場合もありますし、広いスペース（プレイルーム）の場合もあります。またこれらが、西益津小学校（ベース）で行う指導と巡回型指導（週に一度他の学校で指導を行う）と指導を行う場所によっても分かれています。

個別指導では、その子どもの困難さに応じた課題をいくつか設定します。ただそこには必ず体を動かす「運動課題」を取り入れるようにしています。

グループ指導でも子ども個人の困難さに応じていきますが、ここでの指導は特に対人関係に関わるスキルなどの「実践の場」という色合いが強くなります。同じ年齢層の子どもたちが同じ課題に取り組みますが、同じ目的で行うのではなく、個人によってめあては違っているわけです（子どもたち自身は気づいていない場合が多い）。

巡回型指導の場合は、どうしても物理的な制約もあり、ベースで行っている指導がそのままできるわけではありませんが、できる限りベースで行っている指導と同等のものができるよう工夫しています。ただし、グループ指導は難しいのが現状です。

指導が終わると、通級に付き添ってくれた保護者（たいていは指導を直接見てくれます）に指導のねらい・子どもの表れなどをフィードバックし、保護者からの話を伺います。また、担任とは直接電話連絡をしたり、参観していただいたりしています。

その後、子どもたちは保護者と事務室に名札を返し、西益津小学校を後にします（ベースの場合）。こうして「わかくさ」での指導を終えることになるのです。

